

・イベント・講演会・サロンで配布したい。

・DVDの簡略版を広く紹介し、多くの方に知っていただきたい。

・がん経験者の言葉がこれから治療を受けようとする患者の励みになる。

・ちらしは、必要と感じた時に次の行動に繋がる情報が見やすくなっている。

・ポスターは目をひきつけ、内容を理解でき、次の行動に繋ぐことができる。

・DVDは簡略版、全体版が選択できるようになり、用途に応じた使い分けができる。

・いろいろな患者・家族がいる医療機関等で流すには簡略版がよい。時間的にも音声も抑えて字幕にしてあるところも患者・家族への配慮があるように思う。

## 2. 自身あるいは参加者の意見・検討が十分反映されているか。

・検討会議、意見交換は大いに意義があった。

・事前準備、議事報告、遂行などの作業は事務局がまかなった結果だが、患者・市民の意見が盛り込まれた仕上がりになった。

・ポスター、ちらし、DVDも修正がなされて、患者・市民の視点が入っている。

・いろいろな立場の方が、積極的に意見を出し合い、その中で自分の役割を認識しながら、意見を出させていただいた。

・ちらし、ポスター、DVDが作成されるに至ったこと、ちらし、ポスターのイメージ図、表現の選択ができた、など。希望通りすべてに統一感を持たせた。

## 3. 議論の対象として、ツールの内容のみならず、普及や活用について、議論の対象にしたが、こうした検討班の進め方についての意見。

・地域において、相談支援センターの活動状況、連携が大きな課題。

・互いを知りあうことが、必携の普及の第一歩であり、話し合いを続ける中で理解が促進される。今回の進め方は、初めての取り組みとして高く評価できる。

・議事録を読み返して、たくさんの気づきがあった。結論ありきでない、思い思いの考えていること、感じたことを自由討論したからこそ、出てきた意見。

・動画の中で、自分たちの言葉でメッセージを残せたことは、患者必携を身近に感じたり、医療者への啓発にもつながる。

・患者・市民への普及より先に医療従事者向けの認知を広げる取り組みは正道で良かった。

・工程表が明示されるとさらに良かった。

・検討の必要性が理解でき、積極的に議論に参加できた。あらかじめ協力医療機関での普及・活用について意見をいただいたことも、今後の実際の場面の設定を考えるのに大きい。

・議論・検討の内容・目的等を常にクリアに示しており、良かった。

## 4. ツール検討班で得られた気づき、学んだこと、参考になった意見、今後の改善に向けた提案など。

・患者必携を作る過程に携わって、あらためて必携の意義であるコミュニケーションツールであることを痛感した。

・今までの経験を通しての意見をきくことができ、勉強になった。

・患者・市民を応援団としてどう活用していくのかも課題。患者・市民目線の言葉でメッセージを作っていってほしい。

・各メンバーのいろいろな立場での様々な意見は、大いに勉強になった。

・患者・市民パネルの方からの意見ははっとさせられることが多く、有意義。

・特に感じたのは医療提供側こそが「患者必携」があることを知っていなければならないということ。専らがん診療を行っている医療機関のみでなく、一般の医療機関にもこの冊子のことを周知する必要がある。

・医療者側の方、さまざまな活動をされているパネルの方々の意見を聞く機会が得られ刺激を受けた。

・普段健康なとき、学校の保健の授業等での、病気になったときには情報や相談

先を探すことが大事だという教育。

- ・患者・市民パネルの話・意見を通し、大変に勉強にもなり勇気もいただいた。
- ・患者・家族側も自分たちの為にも将来にわたり更に改善できるよう努力する必要も認識した。
- ・ツール検討は少人数で戦略的に進めた方が効率が良いことを学んだ。
- ・作成過程や当事者の方々の思いなど、非常に勉強になった。

5. 「普及・活用支援ツールの基本戦略」(資料2)を踏まえて感じたこと、改善・修正すべきこと、今後さらに取り組むべきことなど。

- ・「基本戦略」は、その通り。意見を吸い上げながら、少しずつ改善・修正に取り組んで行くことが大切。
- ・ツール対象に、情報を入手できない患者も加えてほしい。治療中で新たに再発転移みつかった患者・家族も入れてほしい。一般市民や介護従事者に、がんを理解し、検診の重要性を深め、また患者や家族との接し方を学ぶこととする。
- ・企業とのタイアップ。
- ・患者側に応援団が必要なように、医療者の応援団を作っていくことが課題。
- ・相談支援センターの向上。
- ・検診により、初期でがんが見つかることが大切。患者必携の目的は、がん対策の死亡率の減少と、がん患者と家族の療養生活の向上にある。
- ・本屋への普及率を増やすことも必要。
- ・この検討班に参加して、私自身も大変勉強になった。
- ・提供範囲拡大、活用方法指導、認知度向上、フォローアップ体制整備と継続。
- ・地域の療養手帳情報への各都道府県へのサポート。
- ・認知を広げていくことが必要、草の根的に広げる。検診の際にポスターを貼る。
- ・拠点病院以外にも情報を必要とする多くの患者さんがおり、より多くの患者さんが必要なタイミングで情報を入手できる方法を議論・検討することが必要。

- ・活用シーンを配慮して、いくつかのパターンのものが作れるとよかった。
- ・情報弱者(高齢者や障害者、生活困窮者、過疎地域の方々など)を念頭に置く。

#### D. 考察

がん対策推進基本計画での施策、さらには議論を踏まえ、平成20年5月より国立がん研究センターがん対策情報センターにて患者必携の制作作業がなされた。自立支援型がん情報の企画と製作プロセスにあたっては、昨年度の報告書でも言及した以下の要素を、患者必携と同様、研究班自身が作成・提言するコンテンツ制作にあたって実践することとした。すなわち、以下の要件を満足するツールを試作し、制作プロセスを評価することである。

##### 1) 理念の共有

製作に関わるすべてのメンバーが企画の意図と目的、理念を共有すること

##### 2) 検討プロセスへの参画

企画構成の検討段階から患者・家族・国民の視点を取り入れること

##### 3) 意見交換

項目立てや概略については専門家、患者・家族の意見を踏まえた意見交換を行うこと

##### 4) 関係者の参画

さまざまな関係者現場の医療、看護、介護、社会的・経済的支援など、様々な医療・介護関連職種への理解と協力を得ること

##### 5) レビュー

内容について、わかりやすさ、あたたかみ、有用性など、問題意識や実体験をも

つ患者・家族・一般市民としてのチェックを受けること

#### 6) 専門的レビュー

その内容を反映すること正確さ、信頼性、適切さなど、医学的、科学的根拠に基づく記述であるかどうか、専門家の評価と承認を得ること

#### 7) 改善に向けた継続

継続的に意見や提案を得て内容に反映させること

今回ツール検討において、フェーズ1「普及・活用支援ツールの目的と基本戦略の共有」、フェーズ2「普及・活用支援ツールの基本構造の合意」、フェーズ3「ツールの具体化に向けたブラッシュアップと最終合意」の各段階で、その時点での進捗状況を確認しつつ議論を進めることで、以下の提言を行うことができた。

### 1) 自立支援型がん情報の普及・活用支援ツールのモデルとして、コンテンツを制作した。

ポスター・ちらし・動画は国立がん研究センターがん対策情報センターのウェブサイト「がん情報サービス」に当研究班の成果物として掲載された。広く活用され、意見募集・評価を行うことで、さらなる改善やコンテンツの開発を進めることができると考えられる。

### 2) 情報普及・活用ツールの制作プロセスのモデルを試作・実践した。

情報コンテンツの制作にあたって、さまざまな立場の関係者の参画を得て、患者・家族・医療者の視点に立ったツールの制作を行うことができた。今後の各地

域、あるいは全国的な自立支援型がん情報の制作にあたって、モデルケースになると考えられる。

### 3) 普及・活用支援プロセスについての意見や、制作プロセスの妥当性について評価を得た。

今回の検討班では印刷媒体や動画の内容より、むしろ活用方法や普及の考え方、今後の改善に向けた意見交換や提言の議論が占める割合が大きい。制作されたツールについて、普及や啓発、今後の改善や対象者の拡大、関連したプロジェクトの提案（がん検診などでの啓発、など）を含め、今後の展開においても前向きな協力意思表示が多く見られた。

こうした制作プロセスを経ることにより、情報の活用・普及段階でも、それぞれの参加者の立場での協力や協業が可能になり、より広い関係者への啓発、認知に繋がると考えられた。こうした取り組みは地域や医療機関など、独自にコンテンツを開発したり制作する場合のモデルとしても適応できるモデル事例になると考えられる。

今後に向けた取り組みとしては自立支援型情報の評価と併せて、情報の認知・活用に関するアンケート調査を行う際の協力依頼ツール、内容の紹介を行う場合の理解促進ツールとしての活用が考えられる。患者に「自立支援型がん情報（主に患者必携をモデルとして使用）」を提供し、「患者必携」の有用性、活用度などに関する患者による評価と医師による評価、臨床情報を組み合わせて評価する方法や、患者・家族、医療従事者を対象とする研

修会で、更なる関係者を巻き込みつつより広い現場で活用され、役立つ情報ニーズを把握する研究デザインを取り入れていくことが重要であると考えられる。

#### E. 結論

自立支援型がん情報の普及・活用支援ツールとして、ポスター・ちらし・動画からなる「患者必携 普及活用支援ツール」を制作した。企画検討段階から患者・家族・専門家の視点を取り入れることで、コンテンツの制作、普及や活用に向けた提案を含めたさまざまな意見を反映することができ、実際の活用や普及の段階においてより広い関係者の参画を得たり協力関係を構築したりすることにつながる有用なモデルケースになると考えられた。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1, 論文発表

- 1) 渡邊清高: 知っておきたいがん情報. 薬学図書館 2011;56(1):81-87.
- 2) 渡邊清高: 完成版 がん「患者必携」～患者の求める情報を網羅したガイドとは～. 外来看護 2010; 15:70-77
- 3) 渡邊清高: 生活習慣改善による疾病予防ーエビデンスを求めてー. 成人病と生活習慣病 2010; 40: 1050-1055
- 4) 八巻知香子, 望月美栄子 災害時 要援護者対策におけるユニバーサルデザインと合理的配慮 ーハワイ

州の Interagency Action Plan の概要と実践からー. 社会福祉学;印刷中

##### 2, 学会発表

- 1) 渡邊清高: 知っておきたい がん患者必携(がん情報サービス)について. 第 11 回日本クリニカルパス学会学術集会(2010.12)
- 2) 渡邊清高, 朝戸裕二, 清水秀昭, 高田由香, 谷水正人, 八巻知香子, 的場元弘, 高山智子, 山本精一郎, 若尾文彦: 「がん患者必携」を患者と医療者のコミュニケーションツールに！普及と活用に向けた検討. 第 5 回医療の質・安全学会学術集会. 2010.11
- 3) 渡邊清高, 八巻知香子, 高山智子, 山本精一郎, 若尾文彦: 「がん患者必携」完成版に向けて 内容の評価と普及計画の検討 第 48 回日本癌治療学会学術集会. 2010.10
- 4) 渡邊清高, 朝戸裕二, 清水秀昭, 谷水正人, 八巻知香子, 的場元弘, 高山智子, 山本精一郎, 若尾文彦: 「がん患者必携」試験配布による自立支援型情報の評価と普及に関するパイロット研究 第 48 回日本癌治療学会学術集会. 2010.10
- 5) 渡邊清高: がん情報の読み方と伝え方のヒント 第 25 回東京セルフ特別講座 日本心身医学会公開講座. 2010.10
- 6) 渡邊清高: 健康政策におけるコミュニケーション 情報づくりと普及にむけて～がん患者必携でのとりくみか

- ら～. 第 2 回ヘルスコミュニケーション研究会. 2010.9
- 7) Watanabe K, Yamaki C, Takayama T, Yamamoto S, Wakao F: National distribution program of comprehensive cancer information booklet for newly diagnosed patients to support decision-making on cancer care. UICC 国際対がん連合協会総会 . 2010.9
- 8) 渡邊清高 みんなでつくる、地域で支える、がん患者さんの支援の輪を広げるために がん「患者必携」栃木での取り組み 栃木県立がんセンター 2010.11.7.
- 9) 渡邊清高 みんなでつくる、地域で支える、がん患者さんの支援の輪を広げるために がん「患者必携」岡山の取り組みに向けて 川崎医科大学 2011.1.15.
- 10) 渡邊清高 みんなでつくろう、地域で支えよう、がん患者さんの支援の輪を広げるために 「患者必携」の取り組み 愛知県がんセンター 2011.1.20.
- 11) 渡邊清高 患者必携の作成と試行を踏まえた今後の展開 多地点合同メディカル・カンファレンス 2011.1.27.
- 12) 渡邊清高 趣旨説明 合同シンポジウム 地域におけるがん医療と死生学 東京大学 2011.2.5.
- 13) 渡邊清高 がん患者必携の概要と活用に向けた取り組み～がん患者さんの不安の解消に向けて～ 医療連携強化のための情報交換会 2011.3.3.
- 14) 渡邊清高 みんなでつくる、地域で支える、がん患者さんの支援の輪を広げるために 「患者必携」地域での取り組みに向けて 港区在宅緩和ケア研究会 2011.3.5.
- 15) 大屋久晴, 村上敏史, 的場元弘: 卒後外科教育における緩和医療科研修必修化の経験, 第 110 回日本外科学会 定期学術集会 2010.4.10.
- H. 知的財産権の出願・登録状況
1. 特許取得  
なし
  2. 実用新案登録  
なし
  3. その他  
なし

厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業)

「患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究」

(対がん必携渡邊班)

## 必携普及・活用ツール検討班 第1回会議 会議要旨

日時:平成22年2月10日(水)13:00~16:30

場所:国立がんセンター研究所セミナールーム

出席:渡邊、的場、堀内、吉成、増田、青山、吉村、樋口、松枝、宮原、藤田、富尾、篠原、西脇

**1. 必携普及・活用ツール検討班の目的、概要(渡邊・国立がんセンターがん対策情報センター)**  
渡邊より、本検討班の背景と目的、議論の進め方について報告がなされた。

・「必携普及・活用ツール検討班(以下、検討班)の進め方(案)」の説明がなされた。

・目的は患者必携を紹介・利用を促進するためのツール案をつくることであり、作成までのプロセスについても検討の対象となる。作成方法、成果物の形態、公開までの流れ、議論の進め方などが説明された。

・ツールについての基本戦略、対がん必携班の活動紹介(必携普及の評価、試験配布など)がなされた。連携加算などの診療報酬化の可能性については現在のところ想定していない。

**2. 普及ツールの企画趣旨、原案説明(増田、青山、吉村)**

・増田より、企画の原案と趣旨説明がなされ、引き続いて青山からポスター、チラシ、パンフレット、吉村から動画コンテンツについて説明がなされた。

・試験配布でのアンケートでの示唆をもとに、ツール作成で期待する役割、媒体の特性などを考慮して、目的や対象、用途と内容、伝えるメッセージの案をポスター、チラシ、パンフレットにおいて作成した。

・関係者への働きかけ(自治体など)、公共の場所への掲示、シンボルマークなど、より認知を広げることについて提案がなされた。認知を広げることと配布のペースの考え方について、活用状況や認知度を踏まえた対応を考慮する必要がある。

・動画コンテンツについて、寄り添い、対話を円滑にする位置づけを示すこと、患者、家族に対して複数の活用状況のシナリオを提示し、対話や説明、確認などに使うヒントを提示していく構成とする案が示された。

・待合室など病院内での閲覧、短いテレビコマーシャル、詳しい解説など、動画の位置づけや目的について議論がなされた。

・認知や活用を広める提案を持ち寄ることについて、呼びかけがなされた。広告や協賛、イベント、セミナーや研修会、啓発フォーラムなどの提案があった。

・小児がん患者に使えるような配慮も必要であり、小児がんの研究班との連携が行われている。

**3. 今後の作業の進め方**

・当検討班での議論の範囲を明確にしながら、成果物を作成することを目標に引き続きメールでの議論、意見交換を行う。

以上

厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業)

「患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究」

(対がん必携渡邊班)

## 必携普及・活用ツール検討班 第2回会議 会議要旨

日時:平成22年4月19日(月)13:00~16:30

場所:国立がん研究センター管理棟 第2会議室

出席:朝戸、高田、清水、吉成、石川、浦久保、増田、青山、吉村、若尾(直)、樋口、宮原、藤田、富尾、篠原、西脇、的場、八巻、若尾(文)、高山、渡邊

### 1. 前回会議の概要と必携班の活動紹介(渡邊・国立がん研究センターがん対策情報センター)

渡邊より、前回会議の概要説明と、必携班の活動報告がなされた。

- ・目的は患者必携を紹介・利用を促進するためのツール案をつくることであり、作成までのプロセスについても検討の対象となる。
- ・4地域における試験配布の中間報告がなされた。患者・医療者から好意的な意見がある一方で、実際の配布方法、普及に向けた課題、認知や理解の促進についての指摘もなされていた。
- ・拠点病院向け調査の中間調査がなされた。医療機関内や地域における認知や活用方法の紹介など、具体的な支援の必要性の指摘が多くなされていた。
- ・地域の医療情報については、現場で活用されている情報の整備については取り組みにバラツキがあること、先行的に取り組んでいる地域についての紹介がなされた。

### 2. 普及ツールの企画趣旨、原案説明(増田、青山、吉村)

- ・増田より、ツールに含まれる構成要素とたたき台の概要、引き続いて青山からポスター、チラシ、パンフレット、吉村から動画コンテンツについて説明がなされた。
- ・ポスター、チラシ、パンフレットについては全体のトーン、マナーについてイメージの提示がなされた。大きさ、構成要素(コピー、イラスト、レイアウトなどのデザイン要素とアクセス先や発行元、費用や問い合わせ先、入手方法、閲覧方法などの情報)に何を盛り込むか検討が必要。実際の配布規模や普及計画との整合をとる必要がある。
- ・初期段階では存在の認知を広めること、相談支援センターなど問い合わせ先へつなげることなど、伝える焦点を絞ることがよいのでは。温度差はあるが、浸透度を見極めつつ、徐々に広めていく。併せて医療機関、地域の協議会、相談支援部会で情報共有していく。
- ・地域の療養情報についての各都道府県、地域での広がりにはさまざま、必携そのものの認知を広げることと関連して必要性やノウハウの共有を図る。
- ・動画は医療者向けのものを想定してたたき台を作成した。複数の状況とシーンを組み合わせることで、さまざまな機会に活用できることを示す。それぞれで伝えたいメッセージとストーリーのなかで利用者が共感できる、参考にできる、活用できるシーンを選び出せるようにする。
- ・押しつけがましくない示し方、言葉にないメッセージを組み合わせることも大切。
- ・研修会などで医療者向けのコンテンツを想定していたが、患者の視点でのメッセージや安心/信

頼感をもつような示し方も必要。医療者向けであれば、背景説明、配布・活用方法を盛り込む、など。

- ・配布や入手方法は複数になる可能性があり、シーンとしても複数提示する方法が考えられる。

- ・医療者向けのコンテンツは活用シーンに限られる。コミュニケーションツールであること、概要やノウハウが伝われば、動画や研修の必要性は限られるのではないかという指摘がなされた。患者の活用シーンから医療者としても働きかけの方法をくみ取れる、考えられるような仕掛けが必要。

- ・協力者として検討会メンバーによるメッセージを伝えることもストーリーと別に必要で、効果的ではないかという提案がなされ、次回に向けてメッセージを集めることになった。

- ・事前の周知、関係者への働きかけ（病院、自治体など）、公共の場所への掲示、各職種・学生向けの教育用としての使用など、参画する方々に向けて認知度を向上するようなきっかけにする必要がある。

- ・ツールがあることで、信頼感が生まれる、情報を必要とする人に届けられる、内容が活用される効果が期待される。

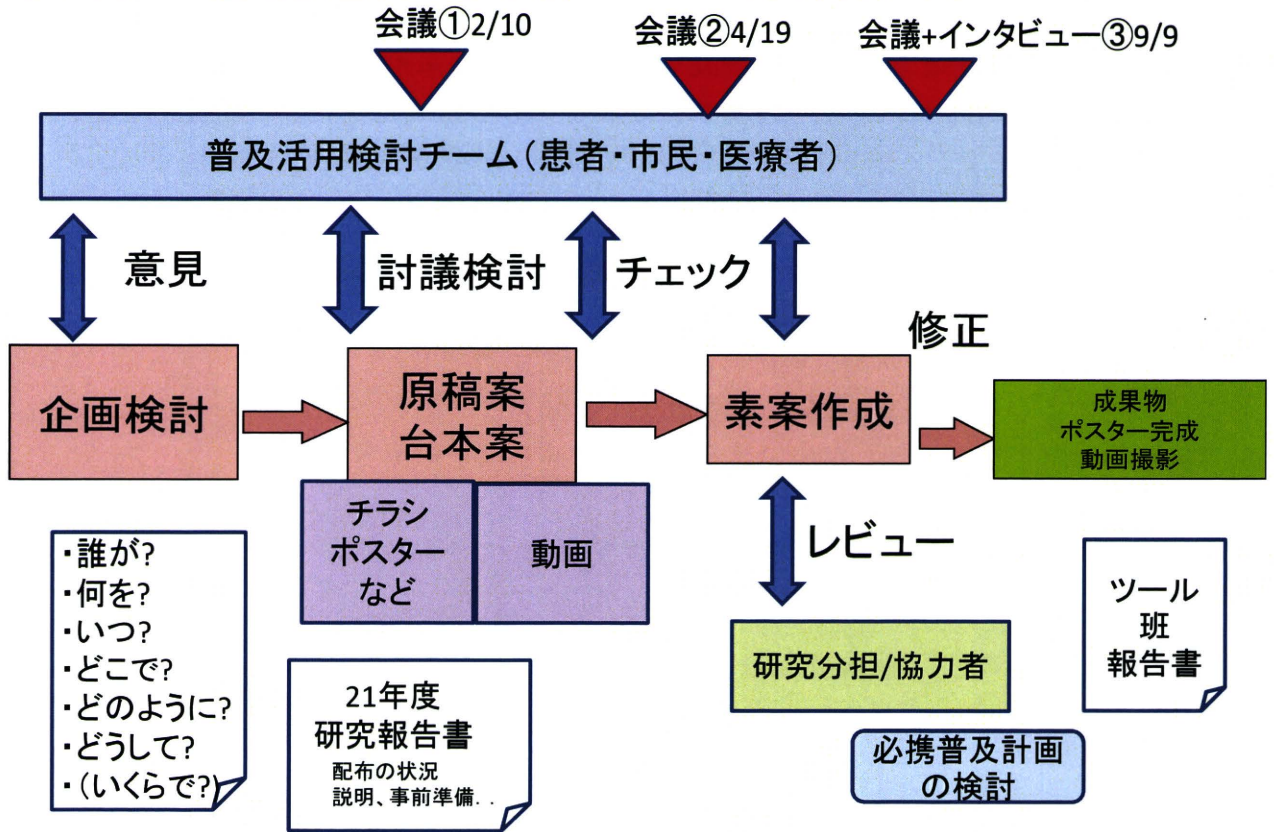
### 3. 今後の作業の進め方

- ・概要案に対して得られた議論をもとに、デザインやシナリオの作成を進めていく、今後もメールなどで議論を行う。次回はインタビューの撮影を予定している。

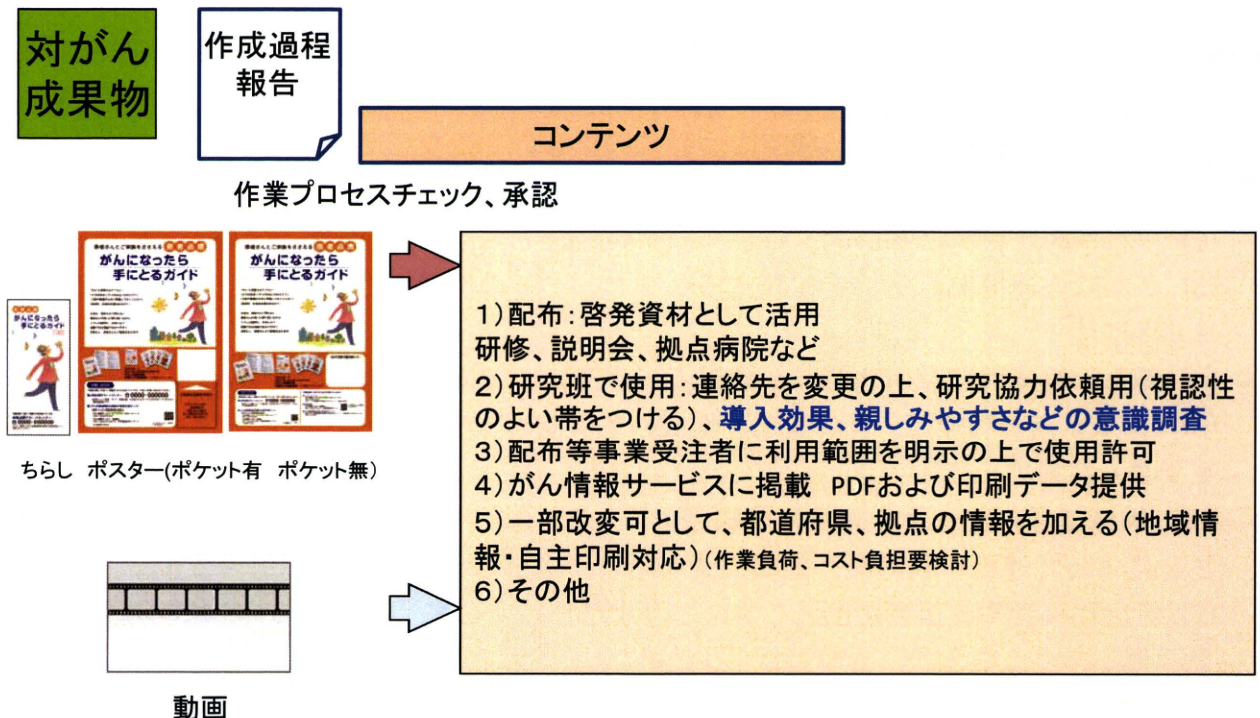
以上



# 資料1. 必携活用・支援ツール作成体制



## 成果物活用方法



**資料2. 患者必携普及・活用ツールについての基本戦略 Ver1.4(2011年4月版)**

患者必携普及・活用ツールの制作作業にかかわるメンバーが共有すべき内容は以下のとおり

1. このツールの主な対象は（作成にあたりターゲットとした像は）
  - (1) 患者必携を手にとった比較的最近の患者さん  
（診断されて間もない時期、医師の指示により渡される）
  - (2) 必携のことを全く知らない、またはあまり知らない患者
  - (3) 必携のことを全く知らない、またはあまり知らない医療者
  
2. このツールの第2の対象は（サブ・ターゲット）
  - (1) がんと診断された比較的最近の患者・家族
  - (2) がんの治療や経過、療養について今後の全体像を知りたい人
  - (3) がんについて関心のある人（知人が患者、など）
  
3. このツールの目的は【目的と対象を明確にすることが重要】
  - (1) 必携の概要がわかる（注：成り立ちや背景ではなく、患者＝私にとってどのような位置づけなのか）
  - (2) 自分のがんの状況と今後の見通しの参考になることが理解できる・期待できる。
  - (3) 医療面だけでなく、介護や公的支援などの理解の参考になることが理解できる
  - (4) 自分が直面する療養や今後の生活の課題に役立ててくれることが期待できる。
  - (5) 一方で、冊子体として完結するものではなく、患者・家族と医療者、支援者がともに同じ冊子体を使って情報共有、情報交換することで、患者にとって役に立つ情報が蓄積され、行動に結びつけられることを伝える。
  
4. このツールの副次的な目的は
  - (1) 患者必携が治療や経過、療養についての正しい知識を伝えるものであることが理解できる
  - (2) （科学的）根拠に基づき、分かりやすい内容であることが理解できる
  - (3) がん診療連携拠点病院と相談支援センター、その他地域の支援体制について理解が広がること
  - (4) がん診療連携拠点病院ががん情報、支援情報の積極的な提供に目覚めること
  - (5) 一般病院、診療所、自治体など地域の各機関が支援情報の共有および提供、連携の重要性を認識すること
  - (6) 地域ごとの先進例や独自の興味深い取り組みについて共有したり、試行したりすることによって連携や利用についてのノウハウが広がること
  - (7) 医療従事者や支援者が触れ、使いこなすことによって“認知の機会、広がり”と深さを深化していくこと

(8) 情報提供、支援の枠組みが支持され輪が広がっていくことで、多くの慢性疾患の支援や情報提供の仕組みのモデルケースとして広く認知、発信されること

5. このツールが主に展示・配布されるのは

- (1) がん診療連携拠点病院の相談支援センター
- (2) がん診療連携拠点病院の各科窓口・外来・病棟
- (3) 特定機能病院の医療相談・受診相談室（コーナー）

6. このツールが展示・配布される可能性があるのは

- (1) 都道府県庁、市町村役場
- (2) 地域の病院、診療所
- (3) 地域の訪問看護ステーション
- (4) 地域の調剤薬局
- (5) 図書館（公共図書館、学校図書館、院内図書館など）
- (6) 患者会、患者サロン、ピアサポートセンター
- (7) がん診療拠点病院が実施する研修会
- (8) 国立がんセンターが実施する相談支援センターなどを対象にした研修会
- (9) 企業の販促資料：生命保険、がん保険、薬局、健康介護関連

7. 必携の広報戦略（ご提案お待ちしております）

- (1) 作成過程にメディアを入れて課題や問題点をフォローしていただく（冊子の利用状況なども含めて）
- (2) 患者市民パネルの方（普及啓発グループ中心）に患者会、地元メディアで紹介していただく（紹介ツールを作る）
- (3) 推進協議会、運営評議会メンバーから折に触れ紹介していただく
- (4) 手帳による管理や情報共有の重要性を海外事例などで広く共有し、その答えとして必携があることで関心を得る
- (5) 必携を使ったドラマや小説を企画する

8. 活用提案として挙げられたもの

- (1) 動画を常時公共空間で流す（待合室、支援センター、一般病院、診療所、サロンなど）
- (2) 研修やイベントの合間や冒頭に上映（10-15分が限度）
- (3) 対象をもっと広げる。（健康な人、必携を知らない人にリーチする）
- (4) 受け取った人への情報が重要 束ねる帯や封筒に説明を添える
- (5) シンボル、ロゴを決めて統一感をもたせる
- (6) 「がんになったら」というのでは受け取れない気持ちへの配慮
- (7) 医療者向けに、内容紹介（教科書の解説本のようなもの、目次のコピー）の要素を盛り込む

- (8) 小児向け、小児がんの親向けの視点を盛り込むか、今後のツールづくりに活かせるようにする
- (9) 全国のがん対策推進協議会の患者・家族委員に対し、患者必携広報のひな形を提供して全国統一の広報を展開する
- (10) 一定期間拠点病院で、機能強化補助金を使った市民公開講座を開催し、患者必携の広報を行う
- (11) 医療施設職員（医療従事者以外の職員も含む）への患者必携に関する研修会を行う

## 対がん必携班 普及・活用支援ツール検討班 最終アンケートへのご協力をお願い



別にお送りするワードの添付ファイルにて、検討班の最終アンケートにご回答いただければありがたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。  
これまでの検討班の活動資料と、普及・活用支援ツールをご覧ください、ご回答ください。今後の普及支援ツールの制作や、普及に向けた研究班の提言に活用させていただきます。

お名前： \_\_\_\_\_

### 1. 完成したポスター、ちらし、DVD をご覧になった感想をお書きください。

2. ツール検討班での、ご自身あるいは参加した方の意見や検討結果が十分反映されていると思いますか。「反映されている」あるいは「反映されていない」などのお答えとともに、そう思う理由や改善のための提案をお書きください。

3. 検討班では議論の対象として、ツールの内容だけではなく、普及や活用シーン、具体的な広げ方(例えば、患者・市民への普及より先に医療従事者向けの認知を広げること、など)について、議論の対象にしてきました。こうした内容は本格的な配布に向けた取り組み(別添のプレスリリースをご参照ください)にて取り入れられました。

ツール案を作成するために議論する、普及案について検討したり、作成に参加する(インタビューなど)といった検討班の進め方について、どのように思われますか。

4. ツール検討班での議論、あるいは作成に参加することで得られた気づき、学んだこと、参考になった意見、今後の改善に向けた提案などがありましたら自由にお書きください。

5. 作成チームでは、「普及・活用支援ツールの基本戦略」(別添資料)を踏まえて制作に取り組んできました。原点に戻り、あらためて「基本戦略」をご覧ください、感じたこと、改善・修正すべきこと、今後さらに取り組むべきことなどがありましたらお書きください。

6. 最後に、この検討班に参加してよかったですか？(どれか一つにマル)

1. とてもそう思う
2. まあまあそう思う
3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない
5. まったく思わない

アンケートは以上です、ご協力ありがとうございました。

メール 添付ファイル kiwatana@ncc.go.jp

あるいは FAX 03-3547-8577

でご返信ください。

ツール	対象	目的	想定利用場面	仕様・体裁
ポスター	患者さん、 家族、検診 受診者、 医療者	①認知促進 患者必携の存在を広く知っていただく役割を果たします。 ②関心喚起 内容に関心をもっていただき、手に取って読んでみたいという気持ちを醸成します。	拠点病院内、相談 支援センター、拠点 以外の医療機関、 官公庁、薬局、など で貼付	B2判(515mm X 728mm) 片面・4C印刷
チラシ	患者さん、 家族、検診 受診者、 医療者	①認知促進 患者必携の存在を広く知っていただく役割を果たします。 ②関心喚起 内容に関心をもっていただき、手に取って読んでみたいという気持ちを醸成します。 ③その他 手元にあることで患者必携の細かい内容を一覧できます。	拠点病院内、相談 支援センター、拠点 以外の医療機関、 官公庁、薬局、など で配布	A4判 両面印刷、3つ折を想定 表面4C×裏面2C印刷、 または表面2C×裏面2C 印刷
パンフ レット①	患者さん、 家族	①内容理解 患者必携の狙いや内容を詳しく知っていただく役割を果たします。 ②シンパ獲得・拡大 パンフレットが患者必携への“序章”として、「本編をじっくり読んでみたい」「使ってみよう」「他の人に勧めたい」という気持ちを醸成します。	必携配布窓口に設 置(相談支援セン ター、各外来)など	A5判※患者必携と同サイ ズ 2C/2C印刷、または表紙 4C/本文2C印刷 12～16ページ
パンフ レット②	医療者	①内容理解 患者必携の狙いや内容の概略を知っていただく役割を果たします。 ②有用性の理解 患者必携が治療や療養生活を送る患者さんとの対話に有益であること理解していただけます。 ③その他 患者必携を患者さんに紹介していただき、患者さんからの質問などに対応していただく“お願い”としての役割もあります。	必携説明会用資料、 研修資料、講習会 などで認知向上用	A4判 ※医療者に馴染みのサイ ズ 2C印刷、 または表紙4C×本文2C 印刷 8～12ページ
動画①	患者さん、 家族	①認知促進 患者必携の存在を広く知っていただく役割を果たします。 ②内容理解 患者必携の狙いや内容・使い方の概略を知っていただく役割を果たします。 ③活用サポート(活用のヒント) 患者必携の活用シーン、ヒントなどを紹介します。	相談支援センター や待合で流す、患 者図書室、Webスト リーミング、プロモ ーション	DVDあるいは短編仕様、 本編1分～10分程度 ※メニュー分けをして、各 パート 単独でも視聴可能 とする。
動画②	医療者	①活用サポート(活用のヒント) 患者さんとのコミュニケーション支援のため、事例ごとの患者必携の活用のヒントなどを具体的に紹介します。	必携説明会用資料、 研修資料、講習会 などで認知向上用 (Webストリーミン グ)、各地域でアレ ンジ	DVD仕様、本編30～45分 ※メニュー分けをして、各 パート 単独でも視聴可能 とする。

患者必携

# がんになったら 手にとるガイド

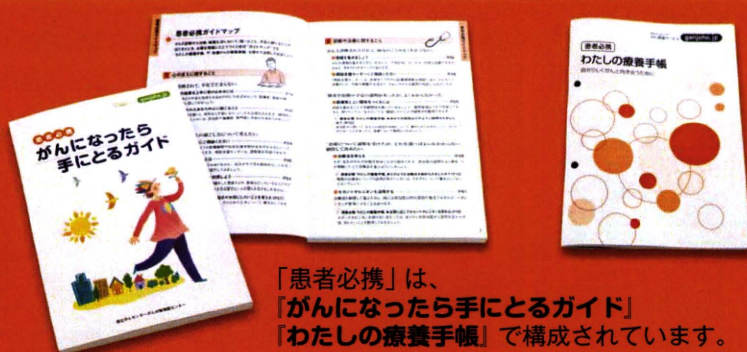
“がん”と診断されてつらい…

「どう向き合っていけばよいのだろう？」

「入院や療養のために準備しておくことは？」

「経済的・社会的支援はあるの？」

本書は、診断されて間もない  
患者さんの想いに寄り添いながら、  
こうした疑問に、役に立つ・  
信頼できる情報で分かりやすく  
おこたえし、患者さんご家族を支えます。



「患者必携」は、  
「がんになったら手にとるガイド」  
「わたしの療養手帳」で構成されています。

## お問い合わせ先

「患者必携」の詳しい情報や入手方法については、下記へお問い合わせください。

### ■ がん診療連携拠点病院の相談支援センター

※治療や療養生活全般、地域の医療機関などの質問や相談を、対面あるいは電話などでお受けします。最寄りのがん診療連携拠点病院は、

「がん情報サービス [ganjoho.jp](http://ganjoho.jp)」のホームページ

<http://ganjoho.jp/>

「がん情報サービス 携帯版」

<http://ganjoho.jp/m/>（携帯電話専用アドレス）

から検索できます。



「がん情報サービス 携帯版」  
⇒「病院を探す」

### ■ 患者必携サポートセンター 0570-02-3410（ナビダイヤル）

※患者さんご家族、そして「患者必携」を活用される方の電話によるお問い合わせ窓口です。

受付時間：平日10時～15時（土日祝日を除く）

あなたの地域の相談支援センター

## ポケット貼り付け スペース

4冊の外側にあるガイドに合わせて  
ポケットを貼り付けてください。

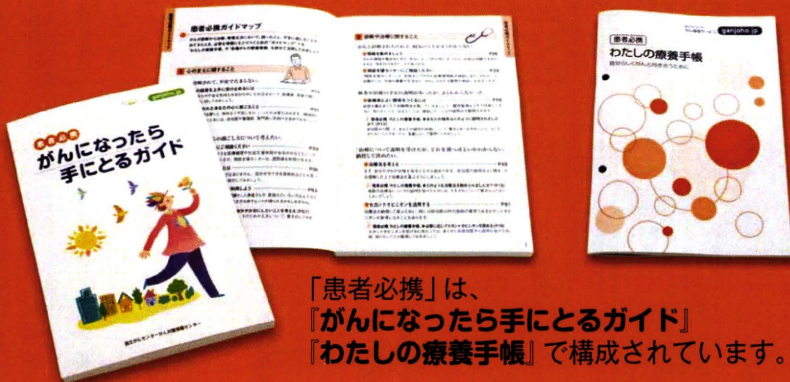


# 患者必携

# がんになったら 手にとるガイド

「がん」と診断されてつらい…  
「どう向き合っていけばよいのだろう？」  
「入院や療養のために準備しておくことは？」  
「経済的・社会的支援はあるの？」

本書は、診断されて間もない  
患者さんの想いに寄り添いながら、  
こうした疑問に、役に立つ・  
信頼できる情報で分かりやすく  
おこたえし、患者さんとご家族を支えます。



「患者必携」は、  
「がんになったら手にとるガイド」  
「わたしの療養手帳」で構成されています。

## あなたの地域の相談支援センター

### お問い合わせ先

「患者必携」の詳しい情報や入手方法については、下記へお問い合わせください。

#### ■ がん診療連携拠点病院の相談支援センター

※治療や療養生活全般、地域の医療機関などの質問や相談を、対面あるいは電話などでお受けします。最寄りのがん診療連携拠点病院は、

「がん情報サービス [ganjoho.jp](http://ganjoho.jp)」のホームページ  
<http://ganjoho.jp/>

「がん情報サービス 携帯版」  
<http://ganjoho.jp/m/>（携帯電話専用アドレス）  
から検索できます。



「がん情報サービス 携帯版」  
⇒「病院を探す」

#### ■ 患者必携サポートセンター 0570-02-3410（ナビダイヤル）

※患者さんとご家族、そして「患者必携」を活用される方の電話によるお問い合わせ窓口です。  
受付時間：平日10時～15時（土日祝日を除く）

### 「患者必携」は以下の方法でご覧いただけます：

■ インターネットで…  
「がん情報サービス [ganjoho.jp](http://ganjoho.jp)」のホームページへ  
<http://ganjoho.jp/>  
このページから無料PDF版をダウンロードして、印刷できます。

■ 携帯電話で…  
「がん情報サービス 携帯版」へ  
<http://ganjoho.jp/m/>（携帯電話専用アドレス）



「がん情報サービス 携帯版」  
⇒「患者必携-がんになったら手にとるガイド」

■ がん診療連携拠点病院の相談支援センターで…  
最寄りのがん診療連携拠点病院の相談支援センターで、「患者必携」の冊子サンプルをご覧ください。

■ 書店で…  
「患者必携 がんになったら手にとるガイド」をご購入いただけます。

患者必携

# がんになったら 手にとるガイド

ご案内

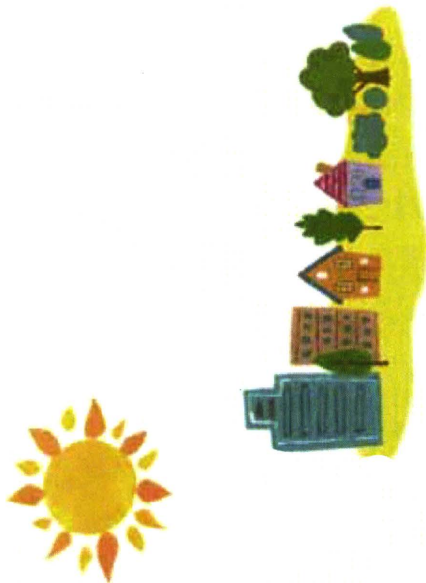


資料6 ちらし

## あなたの地域の相談支援センター

**相談支援センター**とは  
相談支援センターは、がんに関する質問や相談にお応えします。がんの診断や治療についてもっと知りたいとき、不安でたまらないとき、いっしょに考え、情報をさがすお手伝いをします。窓口は全国の「がん診療連携拠点病院」にあります。その病院にかかっても、無料で相談できます。

いまや国民の2人に1人が“がん”になる時代です。  
がんの医療や研究は日々進歩しています。  
病気を知り、医療者と対話し、適切な医療を受けることで、  
がんを克服することができるようになってきました。  
がんを知り、がんと向き合い、がんに負けることのない  
社会の実現を目指して、さまざまな取り組みが行われています。



国立がん研究センター  
がん情報サービス ganjoho.jp

国立がん研究センターがん対策情報センターは、“がん”についてのさまざまな情報を提供しています。

がん患者さん必携の情報が、ここにあります

「患者必携」の詳しい情報や入手方法については下記へお問い合わせください。

■ **がん診療連携拠点病院の相談支援センター**  
※治療や療養生活全般、地域の医療機関などの質問や相談を、対面あるいは電話などでお受けします。  
最寄りのがん診療連携拠点病院は、

「**がん情報サービス ganjoho.jp**」のホームページ  
<http://ganjoho.jp/>

「**がん情報サービス 携帯版**」  
<http://ganjoho.jp/m/> (携帯電話専用アドレス)



「がん情報サービス 携帯版」⇒「病院を探す」

■ **患者必携サポートセンター**  
0570-02-3410 (ナビダイヤル)  
※患者さんご家族、そして「患者必携」を活用される方の電話によるお問い合わせ窓口です。  
受付時間：平日10時～15時 (土日祝日を除く)

■ **「患者必携」は以下の方法でご覧いただけます：**

■ **インターネットで…**  
「**がん情報サービス ganjoho.jp**」へ  
<http://ganjoho.jp/>

※このページから無料PDF版をダウンロードして、印刷できます。  
(PDFをご買いたくたぐためには、AdobeReader7.0以降が必要となります)

■ **携帯電話で…**  
「**がん情報サービス 携帯版**」へ  
<http://ganjoho.jp/m/> (携帯電話専用アドレス)



「がん情報サービス 携帯版」  
⇒「患者必携」-がんになったら手にとるガイド」

■ **相談支援センターで…**  
がん診療連携拠点病院の相談支援センターで、「患者必携」の冊子サンプルをご覧いただけます。

■ **書店で…**  
「患者必携 がんになったら手にとるガイド」をご購入いただけます。



# 患者さんや医療者から、 患者必携 について寄せられた ご意見・ご感想です。

「“がん”といわれて、つらい。でも、自分なりに向き合って、治療とこれからのことを考えていきたい…。」

思いや悩みと向き合いながら、信頼できる情報を集めて、自分なりの解決に向けて取り組んでみる。ときに、納得できる治療を受け、療養生活を送るために、担当医など医療者と話し合うとき。お住まいの地域の支え合いの場や支援の仕組みを知りたいとき。そんなときに患者さんご家族を支え、役に立つ情報をわかりやすくまとめたもの。だから、**患者必携**です。

## 「患者必携」の基本構成

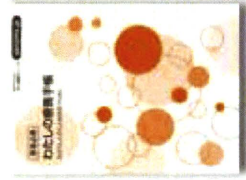
自分らしい向き合い方を考えていくために読む

『**がんになったら手にとるガイド**』  
(A5判サイズ)

聞いたり調べたりして理解したことを書きとめて整理する

『**わたしの療養手帳**』  
(A5判サイズ)

地域によって、相談窓口などの情報をとりまとめた『**地域の療養情報**』もつくられています。



# 患者さんや医療者から、 患者必携 について寄せられた ご意見・ご感想です。

## 患者さんやご家族から寄せられたご意見・ご感想

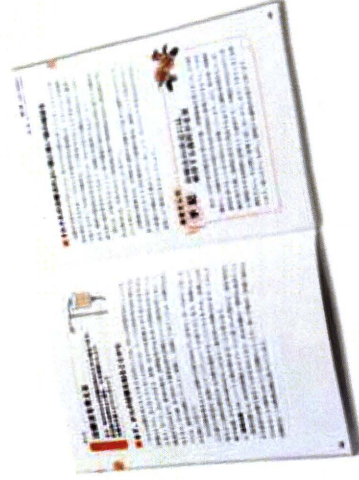
ひとごとと思っていた“がん”を突然宣告され、とても動揺していたときに、この冊子があったとても助かりました。わかりやすく書かれており、役に立ちました。

ガイドを渡されたとき、とてもすぐには開けてみることでできなかつたけど、現実を受け入れて開いてみたら、先生の説明に出てきた言葉でよく意味がわからなかつたことが、この本でわかつた。

自分の症状に合わせて詳しく知ることができるので助かります。担当医に聞きにくかつたり、時間的に聞けなかつたことがこの本で解消されてよかつたです。

“がん”になったときの心構えや家族との対話、公的助成・支援など、とても参考になりました。

“がん”になったとき、情報が欲しくて本やインターネットを見ましたが、一冊になった本が欲しいと思います。手にしたときはとてもうれしがつたです。



## 医療者から寄せられたコメント

治療についての理解が深まり、また今後の病状の予測を考えるうえで参考になるので、患者さんには大変喜ばれています。(医師)

“がん”と告知されて、どこから・何から整理すればよいかと混乱しているとき、患者さんの指針となる本であると思います。(看護師)

入院してまず治療費のことなど経済面に不安を持つ方が多いので、公的助成・支援の記述は患者さんにとつて大変役に立っています。(ソーシャルワーカー)



ストーリーA

胃がんと診断された 60 代の男性

～ 定年退職を迎え、これから第 2 の人生と思っていた矢先の診断。  
いろいろがんの情報について知りたい ～

ショート版

( 4 分 54 秒 )

( 2011/ 1/ 24 段階)